

目次

はしがき	i
略語一覧	vii

序章 2015年の東アジア ― 厳しさを増す戦略環境 ― 1

1 東アジアに迫るイスラム過激派拡散の脅威	2
2 核・ミサイル能力の向上を図る北朝鮮	2
3 南シナ海をめぐる中国の対外拡大戦略	3
4 困難に直面するオバマ政権の対中政策	4
5 新たな対応を迫られる日本の安全保障政策	5

第1章 宇宙安全保障 世界の動向と日本の取り組み 7

1 世界的に進む宇宙システムへの依存	9
(1) 生活に浸透する宇宙利用	9
(2) 深化する米国の軍事宇宙利用	10
(3) 世界的に拡大する軍事宇宙利用	12
2 宇宙利用を当然視できない時代の到来	14
(1) 宇宙空間の混雑と諸外国による対宇宙兵器の開発	14
(2) 宇宙利用の安定確保に向けた主要国の取り組み	18
3 日本の宇宙安全保障政策	23
(1) 宇宙基本法成立前後の変化	23
(2) 宇宙基本計画の策定と日本の安全保障	25
(3) 宇宙安全保障に関する国際協力	28

第2章 イスラム主義過激派の伸長 「アラブの春」後の中東と国際社会 39

1 ISILのシリアとイラクにおける伸長	41
(1) 前身組織の誕生から「イスラム国」の成立	41
(2) シリアとイラクにおける実効支配の確立	44
2 近隣アラブ諸国への勢力拡大	51
(1) エジプト―ISILシナイ州によるテロの拡大	51
(2) リビア―中央政府の不在に乗じたISILの勢力拡大	56
(3) ISILとアルカーイダのグローバルな勢力争い	58
3 国際社会とISIL	60
(1) 国際社会のISIL対処とその困難性	60
(2) 東アジアの安全保障に対するインプリケーション	64

第3章 朝鮮半島 北朝鮮の核・ミサイル能力向上と韓国の対応	73
1 核・ミサイル開発の加速化	75
(1) 潜水艦発射型弾道ミサイルと特殊作戦能力の脅威	75
(2) 硬軟両様外交の継続	79
2 「並進路線」下の独裁体制強化	82
(1) 粛清による恐怖政治の継続	82
(2) 「並進路線」下の経済運営	84
3 対中配慮と対北抑止と——韓国の外交・安全保障政策	86
(1) 対米・対中関係両立努力と対日関係の再始動	86
(2) 課題としての探知能力の向上——韓国の国防政策	93
第4章 中国 政権維持に腐心する中国共産党指導部	103
1 習近平政権が抱える内外の課題	105
(1) 聖域なき反腐敗闘争を進める共産党	105
(2) 南シナ海、東シナ海をめぐる中国の思惑と対応	107
(3) 「新常态（ニューノーマル）」と「一帯一路」構想	111
2 国防・軍隊改革の本格化と人民解放軍の近代化	115
(1) 『国防白書』の発表と国防・軍隊改革の進展	115
(2) 実戦化・統合化・情報化を志向する軍事訓練	120
(3) 「国産」重視の装備開発と軍民協力	122
3 緊張に向かいつつある中台関係	124
(1) 馬英九政権による対中接近政策への警戒感	124
(2) 総統選挙が中台関係にもたらす影響	127
(3) 中台首脳会談の実施	129
第5章 東南アジア ASEAN 政治安全保障共同体の発足と課題	135
1 「ASEAN 共同体」と東南アジアの安全保障	137
(1) 「ASEAN 共同体」の成立	137
(2) 「ASEAN 政治安全保障共同体」の成立	138
(3) 政治安全保障共同体の試金石——南シナ海問題での苦闘	141
2 南シナ海をめぐる東南アジア各国の姿勢	145
(1) マレーシア——「静かな外交」からの変化	145
(2) ベトナム——対米中関係均衡政策の軌道修正	147
(3) フィリピン——「同盟、ASEAN、国際法」活用の継続	150
3 東南アジア諸国の政治変動とその後——政治的自由の困難	152
(1) タイ——独自の政治体制の模索	152
(2) ミャンマー——政権交代の実現と少数民族問題の深刻化	152
(3) インドネシア——経済重視の政権運営と安全保障	153
4 沿海域における活動能力の向上と非対称戦力の強化	
——マレーシアおよびシンガポールにおける海軍装備近代化の傾向	154
(1) マレーシア——厳しい財政状況と拡大する役割	154
(2) シンガポール——2030 年に向けた戦力構築	158

(3) マレーシア・シンガポールの防衛装備市場における政府系企業の 国際提携戦略	161
第6章 オーストラリア 日豪「準同盟」論の課題	169
1 ターンブル政権の発足と国防白書の見直し	170
(1) 首相交代と中国政策	170
(2) 国防白書見直し——豪軍の任務、体制、予算	173
2 インド太平洋関与の継続	177
(1) 米豪同盟協力	177
(2) 不安定なインドネシアとの関係	180
3 「準同盟国」としてのオーストラリア	183
(1) 日豪「準同盟」論	183
(2) 多国間アーキテクチャと日米豪協力	193
第7章 ロシア ウクライナからシリアへの戦略的関与	199
1 ロシアを取り巻く戦略環境改善に向けた動き	201
(1) 後景に退くウクライナ危機	201
(2) シリアへの軍事介入と欧米諸国との駆け引き	205
(3) ユーラシア諸国や中国との連携と限界	209
(4) 強まるロシアの対日アプローチ	212
2 政治基盤の立て直しを図るプーチン政権	215
(1) マイナス成長下で混乱する財政・金融政策	215
(2) 資源価格低下と中国経済失速の影響を受けるエネルギー政策	223
(3) 議会下院選挙・大統領選挙に向けた動き	225
3 国外軍事活動下におけるロシア軍の近代化	228
(1) プロフェッショナルな即応兵力と戦略核の重視	228
(2) 装備品の生産・配備と中国等への輸出	230
第8章 米国 厳しさ増す戦略環境への対応	237
1 アジア太平洋政策の展開	239
(1) 競争の関係が顕在化する対中政策	239
(2) 懸念が強まる南シナ海問題	243
(3) 同盟国・パートナー国との関係強化に向けた取り組み	246
2 アジア太平洋における軍事動向	250
(1) アジア太平洋リバランスと軍事プレゼンスの強化	250
(2) A2/AD 脅威対応の新展開	252
3 安全保障環境の変化と国防態勢	256
(1) 「ロシア脅威」論の浮上と国防計画への影響	256
(2) 「BCA キャップ」と FY2016 以降の国防予算	261
(3) 国防費の「構造改革」	270

第9章 日本 安全保障政策のアップグレード	283
1 平和安全法制と今後の安全保障政策	285
(1) 平和安全法制の成立	285
(2) 平和安全法制による日本の取り組みのアップグレード	288
(3) 平和安全法制の効果	293
2 新ガイドラインの策定	296
(1) ガイドラインの役割とその見直し	296
(2) 新ガイドラインの3つの特徴	298
(3) 新ガイドライン実行に向けて	300
3 日米韓防衛協力の進展	303
(1) 北朝鮮の核・ミサイル開発の影響——地政戦略的構造変化	303
(2) 日米韓防衛協力の展開	306